

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

卒業後に業界と直結した職業人教育を行うために、ともに即戦力となるスペシャリストを育成することを目的としている。現場経験、講師経験豊富な企業と連携し教育を提供。カリキュラム、授業手法等、教材作成等の助言の協力が得られる体制がとれる企業を選定。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を実践するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記されている。これらに基づき、カリキュラム検討会議で審議し、学校長許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年6月15日現在

名前	所属	任期	種別
如月 音流	世界コスプレ技術検定協会 理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
秋山 貴和子	Smart1 Beauty 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
斎藤 慎太郎	株式会社AURA 新規開発事業部長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
古島 暉大	学校法人滋慶学園 常務理事	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—
川戸 功一	東京ベルエポック美容専門学校 学校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—
三井 真以子	東京ベルエポック美容専門学校 運営本部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—
中村 聖之	東京ベルエポック美容専門学校 事務局長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—
安中 松太郎	東京ベルエポック美容専門学校 ヘアメイク科学科長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年5月27日 10:00～12:00

第2回 令和7年10月28日 10:00～12:00

第1回 令和8年5月26日 10:00～12:00

第2回 令和8年10月27日 10:00～12:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員の中で、業界トップの姿を見せる事で“憧れよりも現実とのGAPが大きくなっている”との指摘を頂き、特別授業では、身近な存在である卒業生から業界トップのヘアメイクアーティストの授業へと少しずつステップアップをしながら、職業イメージを持たせるようなフローを構築しました。身近な目標を提示することで、現時点で自分に足りないこと、不足していることを明確にし、その後の改善につなげています。職業選択の多様性に伴い、個人のアーティストのみでなく、一般向けメイクサロンによる特別授業も実施。「ヘアメイク」としてより幅広い職業理解を促している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は卒業後に業界と直結した職業人教育を行うために、業界と連携し、ともに即戦力となるスペシャリストを育成することを目的としている。そのため、特に演習科目においては現場で活躍するプロが講師として授業を行っている。卒業後即戦力として活躍できる人材を養成するための授業内容を、業界関係者とともに企画立案・実施達成度評価を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

業界の求める技術・知識水準を指導できる講師を連携企業から派遣してもらう。事前に学科長と連携企業の講師が授業前に、授業内容、評価等について定める。連携企業講師には、シラバスの策定、試験の実施、評価まで行ってもらう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
メイクアップ総論Ⅰ	Ⅰ：メイクアップに関する専門知識、ナチュラルメイクの基礎的な技術を学ぶ。 Ⅱ：メイクアップデザインに関する専門的な理論と技術を学び様々なメイクアップデザインを作り上げる。	有限会社ビ アルケミスト
アシスタントプログラムⅠ	ヘアメイク業界について学び、現場に行けるための技術・知識・行動を身に付け即戦力となる力を身に付ける。	株式会社ビーサイド
スチールヘアメイクⅡ	年代別の歴史やトレンドを学ぶ、またテーマに合わせたヘアメイクを自分で考えてヘアメイクに落とし込むことができるようになる。作品撮影をおこない自分の作品を残す。	株式会社テーブルカンパニー
メイクアップⅡ	メイクアップアーティスト・ビューティアドバイザーとして必要な技術力・知識力・販売力を身につける。全国化粧品販売員検定ブロンズ資格取得をする。	一般社団法人コスメティックアクターアカデミー全国化粧品販売検定協会
デザイントレーニング	デッサンやカラーワークを通じてメイクデザインの基礎を学ぶとともに、クリエイティブな発想を鍛える。トレンド分析やコンセプトメイキングを取り入れ、実践的なメイクデザインを作成する力を身につける。メイクアップへの応用を意識しながら完成度の高いビジュアル表現を目指す。	一般社団法人コスメティックアクターアカデミー全国化粧品販売検定協会

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修諸規定に定められている通り、教職員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の修得、向上させるために行うことを基本方針とする。	
(2) 研修等の実績	
① 専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 国家試験対策研修会	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間: 令和7年6月4日(水)	対象: 専任教員
内容 国家試験100%学科の取り組みを聞き、自校でできることを考える	
研修名: J-WEB教員向けガイダンス	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間: 令和7年6月12日(木)	対象: 専任教員
内容 JWEBを活用し学生支援研修	
研修名: EAST全体教務研修	連携企業等: 上越教育大学 教職大学院)
期間: 令和7年12月8日(月)	対象: 専任教員
内容 チームやクラスの中で自律協働できる人材を育成するためのキャリア教育の考え方と手法を学ぶ	
② 指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 生成AI リスキリング研修	連携企業等: 労働局
期間: 令和7年8月4日(火)～8月7日(金)	対象: 専任教員
内容 新しいスキルを習得することにより、業務の効率化や問題解決能力が向上し、個々の生産性を高める	
研修名: カウンセリング研修一次	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間: 令和7年9月17日(水)	対象: 専任教員
内容 カウンセリングマインドを学び、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す	
研修名: キャリア教育インストラクター研修	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間: 令和8年1月23日(金)	対象: 専任教員
内容 成長の原則＝3つの行動原則、セルフマネジメントの重要性を学生に伝えるアプローチ	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	CPOアカデミック資格更新「eラーニング講座」	連携企業等: 一般社団法人日本プライバシー認証機構
期間:	令和8年5月29日(金)	対象: 専任教員
内容:	個人情報保護・管理について継続的に広範な知識を習得する機会とする	
研修名:	EAST全体教務研修	連携企業等: 上越教育大学 教職大学院)
期間:	令和8年6月22日(月)	対象: 専任教員
内容:	『勇気づけ』で再構築する教員と学生の信頼関係	
研修名:	EAST全体教務研修	連携企業等: 上越教育大学 教職大学院)
期間:	令和8年12月7日(月)	対象: 専任教員
内容:	クラスの空気が変わる、学生が動き出す	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	FDマイクロレベル〈クラスマネージメント〉研修 I	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間:	令和8年5月20日(水)	対象: 専任教員
内容:	クラスの成長を促すコーチングの基礎を学び、実践することができるようになる	
研修名:	カウンセリング研修二次	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間:	令和8年9月16日(水)～令和8年9月18日(金)	対象: 専任教員
内容:	カウンセリングマインドを学び、学生や保護者に対応できるようにスキル向上を目指す	
研修名:	国家試験対策研修会	連携企業等: 一般社団法人滋慶教育科学研究所
期間:	令和8年6月4日(木)	対象: 専任教員
内容:	国家試験100%学科の取り組みを聞き、自校でできることを考える	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

評価の内容を審議・評価することを通して、学園に理念でもある4つの信頼(学生、保護者、高校、業界、地域)に基づく、学校運営の改善に活かすことを方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目的・目標	理念・目的・育成人物像
(2) 教育課程、教育の実施、学修成果	教育課程の編成、授業科目、教育内容、単位・卒業認定、目標の設定と評価
(3) 学生受入れ学生支援	学生募集及び入学者の選抜、収容定員管理、自主学習促進支援、修学支援、生活支援
(4) 教員・教育実施組織	教員の配置、募集、採用、組織編制、教員の資質向上
(5) 教育環境	環境整備、安全対策、防災組織、施設・設備等
(6) 教育活動の基盤と改善・向上の取組	中期事業計画と財務基盤、学校運営、学校評価の実施と改善活動、情報公開

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価結果は翌年度における重点課題への反映及び、自己点検・自己評価の各評価項目における到達目標設定に活用する。また、委員から上がった詳細の意見については、理事会や学内の運営会議などの意思決定機関にフィードバックされ、具体的な取り組みに落とし込んでいく。登校習慣の身につけていない学生や合理的配慮が必要な学生への対応、および教育については社会背景の要請に適切してブラッシュアップし学内実習や各導入教育等、見直し・対策を立て、職業意識をもって行動できるよう全ての授業において人間教育を軸に取り組みを行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
関 久美	ピラス株式会社 アテンダントスタッフ人事部 部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	業界団体
卯月 睦彦	敬愛学園高等学校 学校長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	高校関係
空田 真之	協和物産株式会社 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	地域関係
福島 賢太	playce 代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生
新田 あかり	保護者代表	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.tbe.ac.jp/school/info>

公表時期: 令和8年6月15日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学内で毎年定める事業計画の執行方針において提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学防止、卒業生の離職防止等)を具体化するため、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。企業等への具体的な情報提供方法としては、業界関係者である兼任教員と教職員との間で講師会議を開催し、授業科目編成や各科目のシラバスなどについて審議を行い、そこで出た意見を実行案へと反映させている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目的及び計画
(2) 各学科等の教育	書く学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.tbe.ac.jp/school/info>

公表時期: 令和8年6月15日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ヘアメイク科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		導入教育	目的意識を高め、プロに必要なことが何かを認識する。同じ目的を持った仲間との相互支援環境を作る。	1前	30	2	○			○		○		
2	○		プロフェッショナルへの道Ⅰ	業界および職種について理解を深め、自分の目指す将来像を明確にする。プロになるために自己管理が出来るようになる。	1前	30	2	○			○		○		
3	○		プロフェッショナルへの道Ⅱ	業界研究と職種理解を深め、就職に必要な知識、身構え、心構えを習得する。	1後	30	2	○			○		○		
4		○	プロフェッショナルへの道Ⅲ	自分の目指す将来像を明確にし、就職内定に向けた準備を行う。美容に対する興味・理解をより深め、将来美容の現場で役立つ知識を身につける。	2前	30	2	○			○		○		
5		○	プロフェッショナルへの道Ⅳ	自分の目指す将来像を明確にし、就業に向けた準備を行い、将来美容の現場で活躍する為の知識とマナーを身につける。	2後	30	2	○			○		○		
6	○		アシスタントプログラムⅠ	ヘアメイク業界について学び、現場に行けるための技術・知識・行動を身に付け即戦力となる力を身につける。	1前	30	2		○		○		○	○	
7	○		アシスタントプログラムⅡ	ヘアメイク業界について学び、現場に行けるための技術・知識・行動を身に付け即戦力となる力を身につける。	1後	30	2		○		○		○	○	
8		○	アシスタントプログラムⅢ	ヘアメイク業界について学び、現場に行けるための技術・知識・行動を身に付け即戦力となる力を身につける。	2前	30	2		○		○		○	○	
9	○		おもてなし	接客業において必要なおのてなしの心、コミュニケーションを育む。おもてなしマスター検定に合格する。	1前	30	2		○		○		○		
10	○		グローバルサービス	日常英会話とビジネス英会話スキルを習得する。また韓国語も習得する。	1後	30	2		○		○		○		
11	○		メイクアップⅠ	メイク基礎技術・知識・衛生を学びJES Cメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。	1前	60	4		○		○		○	○	
12	○		メイクアップⅡ	テーマに合わせたメイクアップ技術を学び、舞台メイクなどの技術が出来るようになる。	1後	60	4		○		○		○	○	

13	○		ヘアスタイリングⅠ	ヘアスタイリングの基術が出来るようになる。イメージ別のヘアスタイルが作れるようになる。	1前	60	4		○	○		○	
14	○		ヘアスタイリングⅡ	イメージに合わせたヘア技術と成人式のヘアスタイルが出来るようになる。	1後	60	4		○	○		○	
15	○		ネイルケア&アート	爪の構造や衛生管理の知識、ネイルケア・カラーリングの技術が出来るようになる。ネイリスト技能検定3級に合格する。	1前	60	4		○	○		○	
16	○		着付け	自分で着物を着る、人に着物を着せることが出来るようになる。着付け(初伝・中伝)に合格する。	1前	60	4		○	○		○	
17	○		メイクアップ総論Ⅰ	メイク基礎技術・知識・衛生を学びJES Cメイクアップアーティスト検定に合格できるようになる。	1前	60	4		○	○		○	○
18	○		メイクアップ総論Ⅱ	似合うメイクを提案できるようになる。全日本化粧品販売員検定ブロンズ合格を目指す。	1後	60	4		○	○		○	○
19	○		ヘアメイクⅠ	ヘアとメイク、カルチャーをトータルで学び年代別のヘアメイクをデザインし、表現できるようになる。	1後	60	4		○	○		○	○
20		○	ヘアメイクⅡ	テーマに合わせたヘアメイク技術を短時間に仕上げる事が出来る。	2前	60	4		○	○		○	○
21		○	ヘアメイクⅢ	テーマに合わせたヘアメイク技術を短時間に仕上げる事が出来る。	2後	60	4		○	○		○	○
22	○		デザイントレーニング	デザインと発想力を養いトータルコーディネート力を身に付ける	1前	60	4		○	○		○	○
23	○		スチールヘアメイクⅠ	ヘアメイク作品撮影を中心にヘアメイクはもちろん、画角、ポージングなどの撮影技術をトータルで習得する。	1後	60	4		○	○		○	
24		○	スチールヘアメイクⅡ	野外ロケ・スタジオなど環境に合わせたヘアメイクはもちろん、画角、ポージングなど撮影技術をトータルで習得する。	2前	60	4		○	○		○	○
25		○	スチールヘアメイクⅢ	多様な撮影環境でも対応できるヘアメイク技術を身につける。クオリティ向上の繊細な技術を習得する。	2後	60	4		○	○		○	○
26		○	ブライダルヘアメイク	ドレスやシチュエーションに合わせたヘッドピース及びヘアメイク技術を身につける。	2前	60	4		○	○		○	○
27		○	特殊メイク	傷や骨格補正等の特殊メイクが出来るようになる。	2前	30	2		○	○		○	○
28		○	サロンワーク	基礎技術の向上を図るとともに、実在するサロンを想定した技術と接客マナーを学ぶ	2後	30	2		○	○		○	
29		○	アイデザイン	アイビューティーの基礎から応用までを学び、顔のバランスを考慮したデザイン提案力を養う	2後	30	2		○	○		○	○
30		○	SNSソリューション	SNSで話題のトレンド情報を学び、同時に発信力も身に付ける	2前	30	2		○	○		○	

49		○	接客マナー	ビジネスマナー、接客マナーを習得する。即戦力となる対応を身につける。	2前	60	4		○	○	○							
50		○	ヘアメイクⅣ	最新のファッションや流行に合わせたヘアメイクのコーディネートができる。	2後	60	4		○	○	○							
51		○	スキンケアカウンセリングⅠ	スキンケアカウンセリングの知識とエステ基礎を学ぶ。	1後	60	4		○	○	○							
52		○	スキンケアカウンセリングⅡ	店頭で役立つテクニックとカウンセリングロールプレイ。コスメマイスター対策、アロマ検定対策。	2前	60	4		○	○	○							
53		○	スキンケアカウンセリングⅢ	カウンセリングロールプレイで提案力を磨く。	2後	60	4		○	○	○							
54		○	トータルセールス	カウンセリングロールプレイ 店舗管理、販売テクニック	2前	60	4		○	○	○							
55		○	セルフビューティー	自分自身を磨くセルフレッスン（スキンケア～メイク）	1前	60	4		○	○	○							
56		○	セルフビューティーⅡ	インナービューティーを鍛える。撮影実習にて想像力を身に付ける。	2前	60	4		○	○	○							
57		○	ブランド研究Ⅰ	様々なブランドの特徴を学び、同時に発信力も身に着ける。	1後	60	4		○	○	○							
58		○	ブランド研究Ⅱ	様々なブランドのコンセプトを理解し、ブランドマネジメントを身に着ける。	2前	60	4		○	○	○							
59		○	ブランド研究Ⅲ	ブランドマネジメントを活かし、ブランドプロデュース力を身に付ける。	2後	60	4		○	○	○							
60		○	トータルビューティー技術Ⅰ	メイク、ネイル、ファッションのトータルコーデを学ぶ。	1後	120	8		○	○	○							
61		○	トータルビューティー技術Ⅱ	スタイリングにあわせたファッションテクニックとネイル技術を習得する。	2前	120	8		○	○	○							
62		○	トータルビューティー技術Ⅲ	トレンドの美容技術、知識を学ぶ。	2後	120	8		○	○	○							
63		○	トレンドメイクⅠ	トレンドにあったメイク技術を学ぶ。販売員検定ブロンズ対策	1後	60	4		○	○	○							
64		○	トレンドメイクⅡ	トレンドにあったメイク技術を学ぶ。販売員検定シルバー対策	2前	60	4		○	○	○							
65		○	パーソナルスタイリング	パーソナルスタイリストとして知識向上。	1後	60	4		○	○	○							
66		○	パーソナルカラー応用	最新のアートを学ぶ。ジェルネイル検定初級対策	2前	60	4		○	○	○							

67		○	ジェルネイル	最新のアートを学ぶ。 ジェルネイル検定初級対策	2 後	60	4		○	○	○			
68		○	ブライダル総合	ブライダル業界の基礎知識から、業界構造などブライダルに関する総合的な理解を深める	2 前	30	2		○	○	○			
69		○	ファッションコーディネート	TPO（時間・場所・目的）に応じたスタイリング提案ができる力を養う	2 前	30	2		○	○	○			
70		○	ビューティ技術論Ⅰ	業界で活躍するプロから最新の技術を学ぶ	1 前	30	2		○	○	○			
71		○	ビューティ技術論Ⅱ	業界で活躍するプロからヘアメイクを目指す上で、必要なスキルを学ぶ	1 後	30	2		○	○	○			
72		○	ビューティ技術論Ⅲ	業界で活躍するプロのヘアメイクから感性を養い作品作りに活かせるようになる	2 前	30	2		○	○	○			
73		○	ビューティ技術論Ⅳ	業界で活躍するプロのヘアメイク業界へ即戦力となれる技術、知識を学ぶ	2 後	30	2		○	○	○			
74	○		実習前教育	業界研究等を行い、実習へ向けての準備を整える。	2 前	60	2	○		○				○
75	○		現場実習Ⅰ	実習の目的・意義を理解し、実習へ向けて目標設定をする。	2 前	120	8		○		○		○	○
76	○		現場実習Ⅱ	現場において求められる接客やお客様対応の基礎を学ぶ。	2 前	120	8		○		○		○	○
77	○		現場実習Ⅲ	現場において求められる接客・クライアント対応・提案の基礎を実践する。	2 前	120	8		○		○		○	○
78	○		現場実習Ⅳ	現場において求められる接客・クライアント対応・提案の基礎を学ぶ。	2 後	120	8		○		○		○	○
79	○		現場実習Ⅴ	現場において求められる接客・クライアント対応・提案の基礎を学ぶ。	2 後	120	8		○		○		○	○
80	○		現場実習Ⅵ	現場において求められる接客・クライアント対応・提案を総合的に実践できる。	2 後	120	8		○		○		○	○
81	○		実習後教育	現場実習の体験を振り返り、成果と課題を抽出し今後のアクションプランを立てる。	2 後	60	4	○		○				○
合計						67 科目		1710時間114 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	定期試験及び臨時試験（論文・レポート含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で評価。また、所定の教科課目及び所定の授業時間数【卒業認定要件：必須1710時間（114単位）】を履修し、その成果が修了認定すべきものと認められた場合、卒業を認定する。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：	所定の教科課目及び所定の授業時間数【卒業認定要件：必須1710時間（114単位）】を履修	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。